

命を守る弁護士

柴田 しばた 前衆議院議員 かつゆき

誰も見捨てない社会を、江戸川から！

あなたの声を聞かせてください！

衆議院議員1期目の主な実績

詳しくは中のページへ»»

党内1期目の衆議院議員では最多回数

実績01 法案提出

再審法改正案、人身売買対策など、
法務・人権分野の法案を提出しました。

実績02 国会発言20回

医療、生活保護、人権、憲法など、暮らしに
関わる問題について発言しました。



柴田かつゆき Profile プロフィール

1968年10月生まれ。開成中高・東大法学部卒。
「困っている人を、助けたい。」との想いから弁護士となる。
司法研修所刑事弁護教官、第二東京弁護士会副会長などを歴任。
刑事事件の国選弁護人などの経験から国会議員を志し、2024年10月の衆議院選挙で初当選。立憲民主党副幹事長も務めたが、2026年2月の選挙では落選し、再挑戦に向けて活動中。
好きなことは柔道（3段）、正伝大東流合気武術（3段）、何かを読むこと、スイーツを食べること。

SKILL スキル

「立法」の即戦力
法制度の穴を議会質問で追及したり、法案提出によりアップデートしたりできる

紛争解決のプロ
様々な紛争を解決してきた経験を活かし、党内・与野党間の合意形成を図れる

ガバナンス改革力
政治の利権構造をただし、人権が尊重され次世代が育つ、活力ある社会を作れる

- 1995 弁護士登録 森綜合法律事務所（現：森・濱田松本法律事務所）
- 2010 司法研修所教官（刑事弁護）
- 2016 第二東京弁護士会 副会長
- 2023 立憲民主党衆議院 東京16区総支部長・柴田かつゆき法律事務所
- 2024 衆議院選挙 初当選
- 2025 立憲民主党 副幹事長
- 2026 衆議院選挙 落選

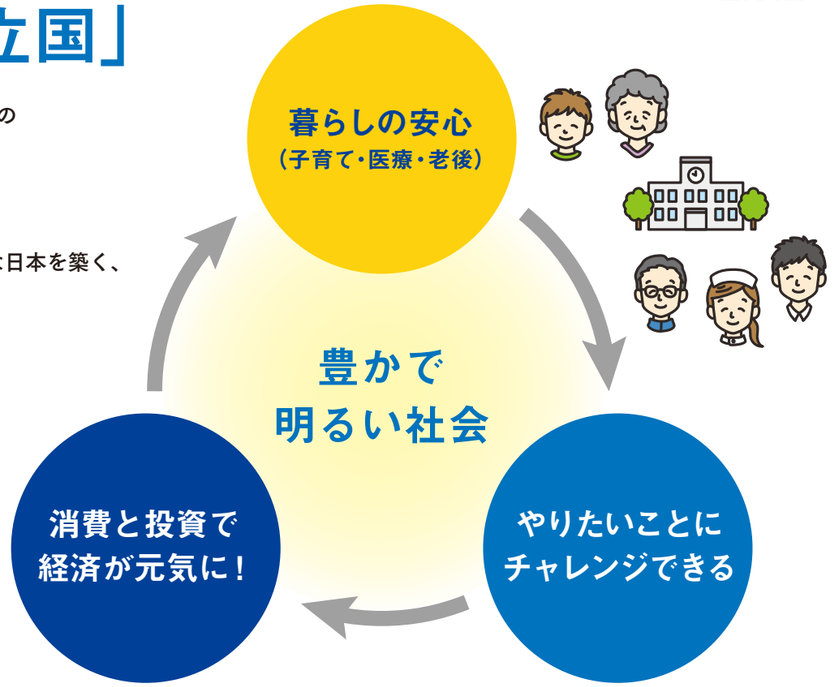
柴田かつゆきが目指す「社会保障立国」

動画でわかる！しばかつの政策

社会保障は「支えられる人」だけのものではありません。
誰もが安心して、学び、働き、挑戦するための土台です。
しっかりした土台から強く豊かな日本を築く、
それが「社会保障立国」です。



江戸川区から
豊かで明るい社会の実現を！



「社会保障立国」のポイント

point01 子育てを支える

子育て支援や教育無償化、子どもの居場所づくりを進め、安心して子育てができる社会を目指します。

point02 医療と介護を守る

必要な医療と介護を誰もが受けられるよう、待遇改善と人手不足解消に取り組みます。

point03 暮らしの不安を放置しない

物価高や制度の狭間で苦しむ人を置き去りにせず、必要な支援が届く仕組みを整えます。



柴田かつゆきを応援する方法

皆さんの応援が原動力です。
どんな形でも構いません。
年齢・住所・国籍等問わず、
どなたからの応援も
お待ちしております。

SNSをフォローする

しばかつの日々の活動をチェックしよう。
おすすめしたいときは、投稿をシェアしてください！

詳しくは公式サイトへ

ボランティアをする

しばかつと一緒にチラシを配りに行こう！地域の活動をする前の軽作業準備などもあります。

後援会員になる

しばかつの活動をもっと身近に！後援会の国会見学・懇親会などに参加できます。

寄付をする

活動の継続を寄付で支えよう！受け取った想いを政治でお返ししていきます。

●国会見学会を定期開催中！ ●ポスター掲示場所を大募集！
詳しくは事務所までお問い合わせください

［柴田かつゆき後援会］ 代表者　柴田勝之
〒134-0091 東京都江戸川区船堀1-4-10第2乙女屋マンション604 TEL：050-8886-1651 MAIL：office.kshibata@gmail.com

もう一度、江戸川から

国政へ—

Next Challenge

弁護士として向き合ってきた現実。

議員になって見えた、この国の課題。

それでも政治をあきらめない理由があります。



“弁護士として見てきた現実”

弁護士という安定した職を辞してまで、なぜ政治の世界へ？

「自分は生きている価値がない人間なんです」

国選弁護で担当した、ある依頼者の一言が、今でも忘れられません。

みなさんは「刑事事件の被告人」と聞いたら、どのようなイメージを持つでしょうか？凶悪犯を思い浮かべるかもしれませんが、実際に現場で向き合ったのは「制度の谷間に落ちた人々」でした。先ほどの依頼者も精神疾患を抱え、困窮の果てに犯罪を繰り返していました。

貧困・障害・孤独・・・

ほんの少しでも「助け舟」があれば、彼らは罪を犯さずに済んだかもしれない。

悲劇の連鎖を止めるには、【社会の仕組み】を作らなければならない。それが私が政治家を目指した原点です。







“国会議員として見えた課題”

議員として活動する中で、理想と現実の壁にぶつかることはありましたか？

もちろんです。国会議員には大きな力があると思われる方もいらっしゃるかと思いますが、現実には違います。

最も痛感したのは、「与党でなければ本当の意味で実現したいことは叶わない」ということです。政府から提出される予算や法案は、既に各省庁と与党の調整が済んでいるため、野党が国会で問題点を指摘しても大きな修正にはならないことがほとんどです。国会に上がってくる前に関与できる立場になることが重要なんです。つまり、「党として選挙で勝つ」ということは避けて通れないんです。

今回の選挙結果を受けて反省するところですが、私個人としてだけでなく、「党として何ができたか・何をしたいか」をみなさんへ伝わる形で発信し続けていきたいと考えています。



“それでも、やり続ける理由”

再び、江戸川区から国政を目指す理由を教えてください。

ご存知の通り、江戸川区は非常に多様性の高い地域です。小さなお子さんから高齢者まで様々な家族形態ですし、職業も自営業から大手企業の会社員の方まで、学生さんや外国人の方も多くいらっしゃいます。

だからこそ、個々の努力に依存しすぎない【社会の仕組み】を整える重要性を感じます。賃金が上がらず、コストカットばかりを求める経済ではなく、衣食住・教育・医療・介護・福祉など社会保障を充実させて、みんなが手にしたお金を安心して使えるようにすることで、成長する経済へシフトさせたいです。





最後に、メッセージをお願いします。

アントニオ猪木さんの「元気があれば何でもできる」――シンプルですが、真理だと思います。誰もが「自分に価値がある」と思えて元気に生きていける社会を作りたい。いま国政に「誠実さ」と「やさしさ」が足りないと感じます。おかしなことはきちんと正し、困っている人がいれば手を差し伸べる、公正であたたかい日本を、みなさんと共に作っていきたいです。

“江戸川のみなさんと共に”

衆議院議員１期目の実績

ガソリン税等の暫定税率廃止

1974 年から続いてきた暫定税率（ガソリン 1ℓ 25.1 円、軽油 1ℓ 17.1 円）は、自動車を使う人だけでなく、物流コストを通して全ての人の負担となってきました。物価高に苦しむ家計・企業を助けるため、野党は暫定税率の廃止を強く求め、与党がこれに応じたことによって廃止が実現しました。

子ども１人あたり２万円の現金給付

物価高の中で子育て世帯を支えるため、0 歳から 18 歳までの子どもを対象に 1 人あたり 2 万円を給付する「物価高対応子育て応援手当」を野党から提案し、2025 年度の補正予算に取り入れさせました。食費や学用品などの負担も重いなか、子育て世帯を直接支える具体策が実現しました。

高額療養費の自己負担引上げを凍結

政府が提案した 2025 年度予算には、高額療養費制度の自己負担上限額の引上げが含まれていました。がんや難病などで治療を続けている患者さんやご家族の悲痛な声をうけて野党は見直しを求め、2025 年度の自己負担額引上げは凍結となりました。

法務委員として活躍

弁護士の専門分野である法務委員会の委員として、刑事デジタル法案では党を代表して衆議院本会議での質疑も行い、政府案を一部修正させました。また、袴田巌さんのような冤罪に苦しむ人を救うための再審法改正案、タイ人少女のような事件をなくすための人身売買厳罰化法案の提案者にもなりました。

国会発言 20 回

法務委員会のほか、憲法審査会・厚生労働委員会にも所属して臨時国会の召集請求や生活保護基準引き下げの問題を取り上げ、予算委員会分科会・政治倫理審査会でも質疑に立ちました。約 1 年 2 ヶ月の任期中における国会での発言回数は 20 回で、立憲民主党の 1 期目の衆議院議員としては最多の回数でした。

